

授業科目名	忍ヶ丘教養Ⅲ	教員名	渡邊 耕二・松田 昭憲 渡邊 裕・中山 迅 佐々木由喜子・田上 幸雅 城戸佐智子・山本 辰典 山下 愛実・劉 一杰 *坂倉 真衣・*満行 知花 (*世話役)	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	必修
					小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
					保育士	必修
					こども音楽療育士	
情報処理士	必修					
科目番号	SIN204	配当年次	2年後期			
授業形態	講義					
単位数	2単位					
科目						
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	忍ヶ丘教養Ⅲでは、「フレッシュマンセミナー」、「忍ヶ丘教養Ⅰ」、「忍ヶ丘教養Ⅱ」で学んだことを実践するために、実際に自分で考え、必要な資料を収集・整理・解析し、その上で他者に理解できるように発表する技術を修得する。また、要旨をまとめる技術や発表時における質疑応答技術を修得する。さらに、本授業では研究活動を行う基礎として研究倫理教育を重視し、インフォームドコンセント、個人情報の保護、データの信頼性の保証、研究不正行為の防止、人権への配慮などについて学び、学生自身の調査・発表活動において実践できるようにする。授業形態は講義とする。					
到達目標	<p>(1) 教員と相談の上、フレッシュマンセミナー、忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅱで学んだ項目について理解・選択・他者を理解させるためのポイントを整理し各自テーマを決める。その上で調査を行い、資料を収集する能力を身につける。調査に際しては研究倫理（インフォームドコンセント、個人情報の保護、人権への配慮等）を意識して取り組む。</p> <p>(2) 得られた情報・知見等をワード、エクセルを用いて整理し、パワーポイント及び液晶プロジェクターを使って口頭発表する方法・基本的技術を修得する。</p> <p>(3) 発表内容を要旨にまとめ、発表内容を文章として正確に記述する基本的技術を修得する。その際、データの信頼性や引用の適切さ、出典や引用の明示、内容の正確性に留意し、研究倫理を反映させた文章表現を行うことに留意する。</p> <p>(4) 与えられた時間内に口頭発表する技術と質疑応答に対する態度及び技術を修得する。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている。」「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	<p>授業の構成は大きく4つに分かれる。まず、教員と相談の上、フレッシュマンセミナー、忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅱで学んだことの中から自分が興味を持ったテーマを決め、それについての資料収集・整理・口頭発表・質疑応答を行うための方法・技術を学ぶ。本講義では、特に視聴覚機器を用いたコミュニケーション技術を修得する。そのため、パーソナルコンピューターを用いて、幾つかのソフト（ワード、エクセルやパワーポイントなどのプレゼンテーションソフトなど）を使用する。口頭発表する内容を決められた文字数で文章として要約し、次に液晶プロジェクターを用いて、他者に如何に分かり易くプレゼンテーションするかについて必要な技術を修得し、最後に決められた時間内に口頭発表する技術と発表後の質疑応答に対する態度及び技術を修得する。</p> <p>さらに本授業では、これらの活動を通じて研究倫理教育を実践的に学ぶことを大きな柱とする。インフォームドコンセント、個人情報の保護、データの信頼性の保証、研究不正行為の定義、人権への配慮などを中心に、研究倫理への配慮を調査・発表活動の基盤として理解し、実践することを重視する。研究倫理は、学問活動の前提であり、知識の創造や社会への発信に不可欠な態度であることを学ぶ。</p> <p>授業形態は講義で、課題解決型授業として位置づけている。授業では、プレゼンテーション、グループディスカッション、ディベート等のアクティブラーニングを取り入れる。</p>					
履修条件・注意事項	履修する科目の順番や条件等の注意事項（例えば、あらかじめ〇〇の科目を履修していることが望ましいなどを記載）					
授業計画	<p>第1回：授業の目的と今後の授業計画についてのオリエンテーションを行う。また、学生配置及び教員配属についての説明を行う。配属決定後、担当教員と具体的な課題について相談する。また、研究を進める上での基本的な姿勢として、研究倫理について簡単に確認する。</p> <p>第2回：学生毎に担当教員の指導の下に研究テーマを決定する。その際に、これまで忍ヶ丘教養の</p>					

	<p>授業で学んできた内容を十分に取り入れるように考慮する。(目標(1)) ※以後、第11回まで担当教員の下で調査を進める。指導を受けた時間はコンタクトタイムとして記録する。</p> <p>第3回：学生毎に研究計画の作成を行う。その際に、期限内に終わるような研究計画を設定できるように学生同士グループで話し合う。(目標(1))</p> <p>第4回：学生毎に図書館を利用しての資料収集を行う。また、研究テーマによりフィールド調査を必要とする学生については担当教員の指示の下で調査を行う。(目標(1))</p> <p>第5回：学生毎にインターネットを利用しての資料収集を行う。また、研究テーマによりフィールド調査を必要とする学生については担当教員の指示の下で調査を行う。</p> <p>第6～7回：学生毎に収集した資料を要約しその講読を行う。その際に、グループ内の各メンバーが個々に内容を理解し、ディスカッションを通して理解を深める。(目標(1))</p> <p>第8～9回：学生毎に資料の内容についての疑問点などについてグループディスカッションを行う。特に、メンバー間で内容の解釈に相違がある場合は、著者の主張を正しく理解できているか、自身の解釈に間違いがないかなどを検討するように再度資料を精査する。(目標(1))</p> <p>第10回～12回：学生毎に収集した複数の資料を比較検討し、共通の見解や課題点などについて明らかにする。フィールド調査などを行なった際には、担当教員の指導の下で分析結果の解釈を行う。(目標(2))</p> <p>第13回：学生毎に担当教員の指導の下で口頭発表資料の作成と要旨の作成を行う。その際に、データの信頼性、引用の仕方や発表内容の正確性についても留意する。調べた内容が他者により伝わるようにするためにはどうしたよいかをグループで討議する。(目標(2),(3))</p> <p>第14回～15回：学生による口頭での研究発表会(質疑応答を含む)を行う。その際に学生は、質問の要点を明確にした質問をするように注意する。発表会后、学生毎に発表の反省を行い、その際に発表をしたり、他の学生の発表を聞いたりして気づいた点をまとめる。また、授業全体を通して取り組んだ研究倫理(インフォームドコンセント、個人情報保護、データの信頼性、人権への配慮など)についても総括する。</p> <p>定期試験：なし</p>
<p>授業外学修時間の確保について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示するので、各自進めること。 事後学習：指導教員から授業時に指摘された課題について、調べてくること
<p>学生に対する評価</p>	<p>到達目標1及び2の到達度を評価するために、資料収集についての計画性、それについての解釈、まとめる力、熱意を持って取り組んだかなどの観点から指導教員が評価する。(50%)</p> <p>到達目標3及び4の到達度を評価するために、作成した要旨、プレゼンテーション、質応答における態度などを総合的に評価する。(50%)</p> <p>なお、作成した要旨やパワーポイントへのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業または発表会時、発表会后に、口頭で行う。
<p>テキスト</p>	<p>特になし</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>特になし</p>
<p>担当者からのメッセージ</p>	<p>忍ヶ丘教養Ⅲを通して、資料収集能力やプレゼンテーション能力を高めましょう。意欲的に取り組むことで、充実した内容となり、自信を持って発表会に臨むことができます。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>坂倉真衣：授業時に伝達する 満行知花：授業時に伝達する</p>
<p>備考</p>	<p></p>